

## シカをひいてしまった場合

ひかれたシカをそのまま道路上に放置しておくことは危険であるため、すぐに警察や道路管理者に連絡し、処置をお願いしましょう。

## ニホンジカ(以下、シカという)の生態と行動

- ◆**生息域**は森林や草原です。食料である草木が近くにあるためです。
- ◆**食性**は、主に広葉樹の葉っぱや、イネ科の草、ササ類の葉っぱ、ドングリなどの木の実で、季節に応じて多岐にわたり、ほとんどの植物を食べます。
- ◆**行動範囲**はとても狭く、0.5~2.5km<sup>2</sup>の範囲で休息と食事を繰り返しています。2~3時間食べては、2~4時間休憩しながら反芻<sup>はんすう</sup>を繰り返しています。
- ◆食べたものを繰り返し消化する反芻<sup>はんすう</sup>動物です。
- ◆**寿命**はオスが4~6年、メスが6~8年程度です。
- ◆**メスは1産1子で、栄養条件が良ければ1歳から繁殖を開始**します。4歳以降は毎年繁殖を繰り返すことから、シカにとって良い環境下では個体数増加が著しく増加します。
- ◆**オスとメスは別々に群れ**を作ります。  
メスは、母親を筆頭にその母ジカから生まれたメスの子供達の群れを形成します。  
オスは、生後1~2年で生まれた群れから離れ、オスだけの群れを形成します。  
また、群れは固定的なものではなく流動的で、森林の中では小規模な群れを形成し、開けた草原などでは合流して大規模な群れを作ります。  
繁殖期にオスの群れは分解し、強いオスはメスの群れを囲い一夫多妻制の群れ「ハレム」を作ります。
- ◆**日の出前と日没直後の薄明るい時間帯**に活動する薄明薄暮性の動物です。  
しかし、深夜にもシカを目撃することがよく有りますし、シカと車の交通事故なども夜間起こっており、シカは夜行性的のように思われますが、これは、シカが人間の活動に合わせて行動時間を変えた結果なのです。  
昼間には畑に人がいますし、山の中ならハンターがシカを撃ちに来ることもあります。  
このため、シカが生活パターンを変えて夜に行動するようになり、人気のない夜の畑におりてきたりするようになったのです
- ◆**群馬県内における生息頭数**は、約4万頭(平成30年度)と推定されています。